

宇電懇ニュース

宇宙電波懇談会事務局発行
(東京大学理学部)

目次

- I. 宇宙電波懇談会運営委員選挙結果
- II. 1989年度宇宙電波懇談会事務局事業報告
- III. 宇電懇運営委員会および総会の報告
- IV. 事務局長からのごあいさつ

I. 宇宙電波懇談会運営委員選挙結果

宇電懇ニュースNo. 83で公示致しました選挙の結果、以下の方々が運営委員および運営委員長に決まりました。

委員長	田原博人	28票		
次点	石黒正人	10票		
委員	福井康雄	22票	長谷川哲夫	20票
	石黒正人	15票	海部宣男	15票
	稲谷順司	11票	笹尾哲夫	11票
	森本雅樹	11票	小川英夫	8票
	祖父江義明	8票	平林久	8票
次点	井上允	7票	浮田信治	7票
次点	大師堂経明	7票	田原博人	7票
次点	土佐誠	7票		

II. 1989年度宇宙電波懇談会事務局事業報告

II-1. 会員の動向

1990年5月1日の時点での総会員数268名(内外国在住者2名)

1989年度新入会員数7名

退会者数3名

会員増加数4名

II-2. 活動報告

① 宇電懇ニュースの発行.

宇電懇ニュース第82号(1989年7月15日)と第83号(1990年4月9日)を発行した.

② 宇電懇シンポジウムを開催した.

1990年1月23/24日に, 系外銀河および銀河系内における星生成をテーマにした, 宇電懇シンポジウムを野辺山宇宙電波観測所にて開催した.

③ 宇電懇運営委員選挙を行った.

結果については上記I. に報告の通り.

II-3. 会計報告

前年度繰越金	340,888 円
1989年度会費収入	66,750 円
1989年度支出	58,154 円
今年度繰越金	349,484 円

III. 宇電懇運営委員会および総会の報告

III-1. 宇電懇運営委員会 (1990年5月9日 16:30より京大会館にて開催)

① 第X期事業報告 (IIを参照)

② 第XI期宇電懇運営委員選挙結果 (Iを参照)

③ 宇電懇シンポジウム(20周年記念)のテーマについて

今年のテーマとして, 「スペースからの電波天文学」が提案された. X線グループの人を招いて講演してもらい, 遠赤外線, サブミリ波を含め, スペースの可能性について考える勉強会とする. 今年度は宇電懇結成20周年にあたるので, 宇宙電波に功績のあった人を招待したい. また, 20周年記念特別講演を行う. 世話人は, 稲谷(代表), 小川, 平林, 芝井, 海部, 水野, 林.

来年度は, 再来年のIAUコロキウムの準備として干渉計関係をテーマにするよう提案があった.

④ 第XI期事務局への引き継ぎ

次期宇電懇事務局は, 名古屋大学物理A研が引き受けてもらえるとのことになった. 事務局員は, 小川, 水野, 福井.

⑤ 諸報告および議論

⑤-1. 田原委員長より報告事項があった。ここに、その資料を掲載します。

⑤-1-I. 天文研連

(1) 各大学の整備等の計画について

大学における天文学研究の充実について、現在まとめの作業にはいっている。次期天文研連(6月の予定)での審議をふまえ、月報に公表。

(2) 天文学の将来計画の推進について

天文学将来計画策定作業委員会が発足した。現在各関連分野から意見を聴取し、それをたたき台として今後の議論を進める。

(3) IAU総会

1994はAmsterdam.

1997は極東にくる可能性が強い。

⑤-1-II. 電波研連

(1) 「Review of Radio Science 1987-1990」の作成

(2) 第24回URSI総会(1993年)

日本に誘致(8月下旬～9月上旬、京都)する方向で進めており、かなり有望と思われる。もし開催が決まれば、総会に関連して電波関係の国際シンポジウムを開催することがありうる。

⑤-1-III. 国立天文台関係

(1) 概算要求関係(電波関係)

電波ヘリオグラフが認められた。

部門の整備：超長基線干渉計天体物理 助手1名

部門の増設：電波天文基礎論(国内客員) 教授1名

(2) 各種委員の選出に関して

・国立天文台運営委員の選出

任期：平成2年12月より2年間

推薦方式：電波天文専門委員会から現在の委員の2倍程度を推薦する。台長が諸事情を勘案して決定する。

・電波天文専門委員会委員の選出

任期：平成2年12月より2年間

推薦方式：宇電懇運営委員会から推薦。

宇電懇で選挙することにするか。

⑤-2. 海部委員より、国立天文台運営協議会メンバー(台外委員)を、

宇電懇から電波天文専門委員会へ推薦してはどうかとの提案がなされ、検討した結果、田原、祖父江、福井、大師堂、松本または奥田の各氏を推薦することにした。

III-2. 宇電懇総会 (1990年5月10日 12時から13時まで京大会館にて開催)

上記III-1の各事項についての報告を行ない、承認を得た。

IV. 事務局長からのごあいさつ

この2年間にはいろいろなことがありました。卑近なところでは、東大理電波グループの林と私の2人で事務局をお引き受けしてまもなく、改組により同天文学教育研究センターが発足し、長谷川、田中、半田という強力なメンバーが加わって、事務局としては万全の体勢ができました(そのつもりでございました)。その間、国立天文台が発足し、国内の天文学体制も一新しました。宇電懇に直接関係のあるところでは、45mはもとより、特にNMAが共同利用を序々に開始し、ヘリオグのメドがたち、名大南天4m鏡が進行し、早稲田アレイが整い、東大60cmサブミリ鏡も動き出しました。JNL Tもいよいよ始まりそうです。V S O PなどVLBI計画も進展しました。また人々の移動も多々ありました。そして宇宙電波の次期将来計画としてLMAという方向がはっきりしてきたことは特筆すべきでしょう。国内はもとより、世界でも、ベルリンの壁が崩れ、東西の様相が一変し、天文学の世界では待望のH S Tが文字どおり軌道にのり、電波天文学の計画や実行も目白押しというあंबいで、実にいろいろなことが起こった2年間でした。

さて宇電懇はというと、上記の電波関係の計画群をバックグラウンドとして大いに支援してきたことは確かですが、組織としては比較的平穩無事にすごしてまいりました。特に波風もなく、運営委員もあい変わらず、事務局としても、あまり活躍する機会もなく、Ha, Ha, Taの3君がすべて如才なく処理してくれたおかげで、他の局員は人員過多ぎみでまことに平穩でした。しかし世の中の情勢を見るにつけ一組織として、かくも安穩と日を送っていて良いものか自省することもしばしばでした。次回の宇電懇シンポは20周年にあたり、そのあたりを考えたおす機会になれば良いと思いますが、会員諸子、そして次期事務局の名大A研の皆さんには特に、曲がり角にきたわが宇電懇の今後を良く考えていただきたいと思います。

.....
宇電懇事務局

〒181 三鷹市大沢2-21-1

東大理学部天文学教育研究センター

祖父江義明, 長谷川哲夫, 田中培生, 林正彦, 半田利弘

Tel: 0422-41-3734 (祖父江) 3737 (長谷川)

Fax: 0422-41-3749

E-mail: y.sofue@tansei.cc.u-tokyo.ac.jp@relay.cs.net

郵便振替口座 東京 6-369468
.....